

入職期における中学校社会科教師の職能発達に関する研究

胤森 裕暢*・田中 泉*

要 約

本研究は、入職期にある社会科教師が、勤務する中学校及び、同じ入職期にある他校の社会科教師らからどのような手立てを得て、いかに自らの授業力を向上していくのかを明らかにしようとしている。そのためにまず、対象の教師が、入職期に授業力を向上できていたかどうかを、学習指導案や自身をはじめ関係者へのインタビューを通して明らかにしていく。次に、この教師及び勤務校の校長や同僚らへのインタビューを通して、その授業力向上を支えてきた校内外の研修や支援の態勢などの手立てを明らかにしていく。

成果として、授業力が向上する手立てとして、授業モデルを示すなどして明確な示唆を与えてくれる先輩社会科教師、自らの授業を吟味し改善し続けるための授業研究を推進する校内の態勢、社会科教育の観点から、より異なる視点など手がかりを与えてくれる校外の社会科教師や授業研究の組織、そして教師自身の授業づくりへの主体性があることを明らかにしたことがある。

残された課題としては、こうした手立てなどを組み込んだ校内態勢や校外における授業研究会の具体像を明らかにすることなどがある。

1. は じ め に

教師としての力量の中心には、いわゆる授業力¹⁾がある。なぜなら教師は、生徒への指導の大半を授業を通して行っているからである。特に入職期にある中学校教師が、専門とする教科(本稿では社会科)の授業力を発達させることは必須であり、教師としての生き方にも大きく関わると考えられる。

また今日、学校に対する期待は大きく、具体的に要請されている事も多い。例えばいじめ、暴力行為、不登校等の生徒指導上の諸課題への適切な対応が求められている。教師は授業力を向上させなければ、たちまち実践上の困難を抱えてしまう可能性がある。今日的な生徒指導上の諸課題を抱えるようになっている学校現場において、教育活動の中心は依然として授業であ

る。この中で生徒指導を展開することなく、諸課題を予防することや全ての子どもたちの自己指導能力を育成することは難しいといえよう。

さらに現代、変化が激しく先行きが不透明な社会になりつつあることから、「基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力」の育成が求められている²⁾。こうした資質育成には、「子ども自身が自らの主体的な関心に基づいて課題を探究していく」ことを核とする「新たな学び」が必要と考えられている³⁾。

これらのことから、教師の授業力向上は切実な課題になっていると考えられる。特に社会科教師は、急激に変化を続けていく社会の認識を通して、これからの市民・公民としての資質を育成しようとするために、その学習内容と学習方法の両面から授業を改善し続ける必要があると考えられる。そのためには、日々の実践を通

* 広島経済大学経済学部教授

して授業力向上を図る手立てが必要といえよう。

中央教育審議会は、『「学び続ける教員像」を確立するため、教育委員会と大学との連携・協働により、現職研修プログラムを改善し、高度化」するよう求めている⁴⁾。また、教員養成期間より圧倒的に長い現職段階に、教師が「日々の教育実践や授業研究等の校内研修、近隣の学校との合同研修会、民間教育研究団体の研究会への参加、自発的な研修によって、学び合い、高め合いながら実践力を身に付けていく」ことに注目し、「教員の教材研究や授業研究、自主的研修の支援などを推進するとともに、多忙化の解消など教員が研修等により自己研鑽につとめるための環境整備が必要」とする⁵⁾。

では、大学教職課程の学びを終え、入職期⁶⁾にある中学校社会科教師の授業力向上には、どのような手立てが重要となるであろうか。今日、「精神的なケアも含めて手厚い支援や研修が必要」⁷⁾とされるが、それは具体的にはどのような行われればよいのか。初任者の授業に関する経験や力量は各々異なっている。教育委員会や大学と連携を図りながら、授業実践の場である各学校が主体となり、取り組みを進めていく必要がある。

そこで本稿では、学校現場における授業力向上の手立て、ひいては取り組みのあり方・態勢について、入職期の社会科教師と、その勤務する中学校及び、同時期に別の中学校に入職した社会科教師らの協力を得て、明らかにしていく⁸⁾。まず、この教師が入職期に授業力を向上できていたかどうかを、学習指導案や教師自身をはじめ関係者へのインタビューを通して明らかにする。次に、この教師及び勤務校の校長や同僚らへのインタビューを通して、この教師の授業力向上を支えてきた校内外の研修や支援の態勢などの手立てを明らかにしていく。

2. 社会科教師の授業力の変容

2.1 対象教師の授業力変容に関するデータの概要

では、対象とする教師（a教師）の授業力はどのように変化していたのであろうか。これを明らかにするために、校内での社会科研究授業と半構成的面接法によるインタビューを行った。概要は次の通りである。

社会科研究授業とインタビューの概要

- i 主な対象者：他に、a教師と同じH市立A中学校の同僚にもインタビューしたが、本稿では分析対象としない。なおe教師は、勤務するH市立B中学校の所属するH市の教員研修所で行われた自主的な社会科授業研究会で筆者が面識を得て、本研究への参画を依頼した。
 - a教師（入職期、H市立C中学校で2年間の臨時教師後、A中学校に異動し、1年間の臨時教師を経て、201X年にH市の教諭として採用）
 - b校長（A中学校、a教師がC中学校に在職時に同校校長）
 - c教頭（A中学校、当初、同校の主幹教諭としてa教師に関わっていた）
 - d教師（A中学校、入職期、臨時教師、非常勤講師としてa教師と関わっていたが、H市教諭として採用され、201X+3年4月時のインタビューは出来なかった）
 - e教師（B中学校、入職期、201X年にH市の教諭として採用）
- ii 対象とするa教師の研究授業：分析は当日の学習指導案（特に「単元について」の「指導観」）とする。またa教師は、201X年～201X+2年の間、他にも社会科、道徳の校内研究授業を行っているが、本稿では分析対象としない。なお本研究の間、a

教師の授業づくりに、筆者らは具体的な指導・助言等を行わないこととし、研究の説明時、a教師ら対象者とも確認した。

①201X年9月、第3学年対象の公民的分野授業「三権の抑制と均衡」

②201X+2年1月、第1学年対象の歴史的分野授業「大化の改新」

③201X+3年2月、第2学年対象の歴史的分野授業「江戸幕府の成立と支配のしくみ」

iii 対象とするインタビュー：他に本研究に関する説明や協議、インタビュー等を行ったが本稿では分析対象としない。

①201X年8月、a教師、d教師（A中学校において）

②201X年+1年3月、e教師（B中学校において）

③201X年+1年3月、a教師、d教師（A中学校において）

④201X年+2年2月、a教師、d教師、e教師（A中学校において、授業研究協議会を含む）

⑤201X年+3年2月、a教師、b校長、c教頭、d教師（A中学校において）

⑥201X年+3年4月、a教師、e教師（A中学校において、授業研究協議会を含む）

iv 主な質問：他に、質問し回答を得たが、本稿では分析対象としない。

①a教師、b教師、e教師に対しては、「これまでどうやって授業力をつけてきたと思うか。」「これからどういう社会科教師になりたいか。」

②b校長、c教頭、d教師、e教師に対しては、「a教師のこと（授業への取り組みについて）どう思いますか。」

2.2 対象教師の授業力の変容

2.2.1 「指導観」の質的変容

授業力の変容、向上をみるためのデータとして、筆者らはii-①～③の研究授業用の学習指導案、特に単元の「指導観」に注目した。なぜならその変容を明らかにしたい授業力は、本稿の冒頭にも示したように、大学教職課程で身に付ける教材研究の力や授業構成能力の基礎の上に、現場で身に付けたい実践的な力を含む総合的なものである。通常、「指導観」には、「ねらいにどのような手だてをもって達成していくのかを具体的に書く。」とされる⁹⁾。ここには教師によって、担任する生徒達をめざして、単元をつらぬく目標とそのための学習内容や学習方法が、具体的でダイナミックに書かれることになるからである。表1中のii-①～③の「指導観」を示すと以下の通りである。

ii-①の時には、学習内容（下線_____）として、一般的説明的な知識の概要を示すに止まっていたが、ii-②、③では、学習させたい知識の要因や理由にも言及し、中心的な発問を描き出している。特に③では、それらがより構造的に記述されている。思考・判断・表現についても記されている。

ii-①では、学習活動（下線_____）として、「小グループでの活動」とだけ書かれていたが、ii-②～③では、「協同学習による対話」（②）、さらに「お互いの意見を交流し思考を深化」（③）させると記し、学習内容に応じて用いる学習活動の意味を記している。

さらにii-②、③では、「生徒に自分の言葉で表現させたい」という、教師として授業に込めた願いが記されている。他に、i-①ではなかった思考・判断・表現力に関わる記述が登場し、③では、より構造的に説明している。

ii-① 単元名「国の政治のしくみ」

国会を中心とする我が国の民主政治の仕組

みのあらましや政党の役割を理解させたい。

また、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることも理解させたい。そして、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、民主政治の推進と公正な世論の形成や国民の政治参加との関連などについて小グループでの活動を通して考えさせたい。

ii-② 単元名「古代国家の歩みと東アジア世界」

聖徳太子の政治から大化の改新を経て確立した律令国家が、どのような政治をねらっていたのか、その特色について資料を読み取り思考を深め自分の言葉で表現させたい。そこで、グループによる協同学習を仕組み、生徒同士の対話を通して課題解決をさせたい。

特に今回は、教師の説明を待っている生徒が、自ら思考できるようなワークシートを工夫し、教師が模範解答を出さずに生徒の言葉をつないで授業のまとめを行いたい。そして最後に生徒一人一人が自分の言葉で表現できるような授業に挑戦してみたい。

ii-③ 単元名「江戸幕府の成立と鎖国」

江戸幕府の成立と大名統制などの諸政策に関する各資料から読み取った情報を、関連づけて思考させることを通して、なぜ約260年の安定した社会が続いたのか理由を考えさせ自分の言葉で表現させたい。そのために、お互いの意見を交流し思考を深化させる協同学習を用いた。そしてワークシートの構成を考えた。(下線は筆者。)

このように、i-③にいたり、a教師が本単元において身に付けさせたい中心的な学力や、そのための学習内容、学習方法が具体的かつ構造的に明記されるようになっており、研究授業(ひいては日々の実践)の積み重ねを通して、「指導観」の内容が質的により優れたものになっ

ていると考えることができる。

2.2.2 対象教師による研究授業および授業への取り組みに対する関係者の評価

b校長には、各研究授業時に、本研究の進捗等について説明してきた。これに対し、「しっかり鍛えてやってほしい」と感謝の意を表されるだけで、a教師の授業について直接触れたのは、ii-③の研究授業に関するiii-⑤における次の語りだけである。

ii-⑤ 〈iii-③の研究授業についてのb校長の語り〉

…本時の目標も、どうすれば子どもがぱーっと食らいついてくるか。例えば今日の(目標)は、260年間というのが大きなスパンですね。じゃあこの260年間を子どもたちは、イメージ出来たか。何年から何年まで260年だよじゃなくて、例えば今の平和になってからはまだ60年、ところが江戸幕府はその何倍も続いているとなると、比較して260年が、「おー、じゃあ何でだろう。」という気になるんで。今日はちょっと簡単に行きすぎたかな。これが本校の、目標をいかに子どもたちに興味づけて、「わー知りたいなあ。」と。振り返りの時に、今日は説明したんじゃけど、1個以上、2個以上言えるようになる。そしてその理由も言えるようになるとしたら、より具体的になる。

…(今日の授業は生徒達が)、食らいつきそうですね。なぜという発問で。サブクエスションも4個ぐらい設けて。各班で解かせていくような授業展開でしたよ。まあ展開としては、理想とするというか、いい展開でしたよ。目標をいかに、これがまあまたこれからの課題だと思うんですよ。子どもたちもなれてるから比較的すーっと。

授業の中で子どもをつくる。授業の中で生徒指導の3機能を。やっぱり授業が一番だな

あと思う。という所なんです。ははは。…

a 教師がA中学校に赴任し、4年目が終わる頃に行われた研究授業（ii-③）後の協議会で、b 校長は、自校のイメージする授業スタイルに基づいて、優れた社会科授業が行われたという評価だけでなく、さらなる改善の方向性を明解に語っているといえよう。すなわち a 教師が授業を改善する課題として、学習内容と学習方法の要といえる目標について、いかに生徒にとって切実なものとして把握させるかを考えるよう語っている。

次に、B中学校の e 教師は、これまで研究授業（ii-②、③）を DVD で視聴し、それを踏まえた協議会（iii-④、⑥）を通して、a 教師の授業への取り組みについて次のような語りをしている。

iii-⑥ 〈a 教師の授業に対する取り組みについての語り〉

…一言でいうと、すごいなと思います。まあ、指導案つくるのは大変だと思いますし。指導案をつくるのは年に1回か2回かだとは思いますが。あのお、学校として協同学習に取り組んでいたとしても、…。a 先生はそのあたりきっちりしていますし、あのその決められた枠で、じゃあ社会（科）でということを、すごく丁寧なされたと思うんです。…4人でやるには、どういう問いを立てたらいいとか、個人志向した場合、集団思考の場合…、丁寧に、きちんと、あの時間の限られた中で、…かなり、あのすごいなと、感服しています。…

…(去年1本、今年1本、a 先生の授業を視聴して、先生自身の授業実践に何か影響は、) あああります。あります。もちろん。こういうやり方もあるんかと。…そうですね。子どもが、だから一生懸命考えていますから。たぶん、そのあたりの日々の取り組みがある

から、(子ども達も) そのときは必死に考えようとするんだろうな、…。

e 教師は、DVD で視聴した授業の模様よりも、そのための学習指導案づくりについて語り、A中学校で求められている授業スタイルに基づきながら a 教師が自身の社会科授業づくり、特に学習活動の工夫に注力していることを評価している。(また、こうした比較的間接的な関係性であっても、) 同じ入職期にある自らの授業力向上へ意欲付けできていることも語っている。

このように、学習指導案の記述内容と関係者による他者評価の分析から、a 教師による授業づくりは進んでおり、その基盤である授業力の向上も図られていると考えることができる。

3. 入職期の授業力を向上させる手立て

3.1 授業力向上への校内の態勢

では、A中学校に赴任した時、入職期にあった a 教師は、どのようにして授業力を向上させたのだろうか。これまでのデータ分析からも校内で継続的に社会科の授業研究がなされたこと、校内外の教師達が a 教師の授業づくりに関与してきたことなどが考えられる。

また筆者は、地理歴史科・公民科教師が自らの授業づくりを改善していくために、「連続的な授業研究を行える研修体系」「各授業研究を深化・発展させるメンター」「授業研究に対する教師の主体性」が求められることを示した¹⁰⁾。

こうした視点も持ちつつ、a 教師自身が iii-①、③～⑤ (②、⑥) は、e 教師にのみ同様の質問「これまでどうやって授業力をつけてきたと思うか。」を行った) の中で、自らの授業力向上について語っていたことを示すと次のようになる。(下線は筆者。なお下線 は、a 教師が授業力向上のために主体的に行動した内容、下線 は、関係者から得られた手がかりや手

立てについてである。)

iii - ①

…(臨時教師をしていた) D中のころ、b校長に「とにかく教材研究だ」といわれてきた(b校長は、a教師がC中学校の臨時教師時の上司でもあった)。当時の教頭からも、「部活、生徒指導よりなにより、まず授業ができるように!」といわれてきた。…(退職して社会科講師であった)先輩の先生から、T、Tで授業をしながら、社会科の知識や授業の進め方を教えてもらった。…市販の教材も何社か購入し、読み比べながら加工して授業に使ってきた。…インターネットで授業をとってきて、真似してみた。…市中研や教育センターの授業研究会に参加し、先輩方の授業や意見など、いろいろ見聞きしたことを、実際授業でやってみた。(こういう研究授業が臨採の時には貴重だった。)…

iii - ③

…書物、市中研でもらう冊子など読んで、自分なりに勉強。あと先輩に見て頂く。あと校内の研究授業を率先して手を挙げる。…(今のA中学校には)やりんさいという雰囲気もあるんです。年に1回は自分のために研究授業をやらないといけな思っている。指導主事や〇〇先生にも見てもらって力がついたかなと思っている。日々の授業も大事と思う。導入とか変えたり、ニュースを使ってみたりとか、発問も変えたり。…授業ノートもとっている。記録というよりは、削除、修正しようとして。新しくプリントも作っている。…d先生にもプリントをあげて、彼のものにしてもらいたいとも思っている。…

iii - ④

…こういう機会を頂いて、チャレンジすることで、…。新しいことなので、どうしても文献にあたらないといけな。何とか反映し

ようとして授業を考え、先輩、後輩、校長先生、教頭先生、主幹先生にも応援していただいて、授業やる時には観ていただける。その後に講評があって、またそれに返していきますよね。そして本番の授業があって、先生方にも指導していただいて、また考えるというサイクルがあって、その中でいろいろできるので授業力がつくのかな。何より子どもたちが面白くないようにしている時、よく考えるようにしています。5分でも考えてメモを残しておいて次の授業に活かす。…一人では何もできないので、支えて頂いて、あとは子どもですね。…

iii - ⑤

…研究授業をする。しんどいが、こういう機会を逃さないこと。32歳になったが、若い内にやらないと聞けなくなるように思う。…今だったら「これどうですかね。」と聞ける。…研究主任が声かけて、若い人達が集まってこういう環境、機会を作ってくださる。授業研究や協議会をしようという、学年主任はビデオを撮ってくださる。こういう学校環境だからがんばれるとも思う。…一方では、やることが増えている。何年前は授業さえやっておけばよかったが、家族も増えた。学校が落ち着いているときにやらないといけな。前任校の経験があるので、これで生徒指導が忙しくなったら大変だと思う。おそろく授業をつくらうという気にもならないだろう。…A中に来てから…、生徒はどんどん落ち着いてきている。子ども達は力をつけてくれている。…いつも子ども達には、…自分達でものをつくったり、協力したりすることが求められるようになってきているね、がんばろうと語っている。…何で(先生達が)みんな集まって勉強するのかということ、ロマンを語っている、メッセージを送っていることを生徒も理解してくれているように思う。

…(下線は筆者。)

a 教師は、自らの授業力を向上する手がかりや手立てとして、D 中学校で臨時教師をしていた頃、校長をはじめ先輩の社会科教師から教材研究の重要性や社会科の学習指導のあり方について示唆を得たこと、先輩教師らに授業観察してもらったことなどを挙げている¹¹⁾。

その後、A 中学校に赴任し、指導主事などに観察してもらい経験も通して、研究授業の意義を見出し、校内授業研究の意義についても繰り返し語っている。なお、a 教師の研究授業は年次別研修を経て、次第に自主的、校内的なものが多く行われるようになったが¹²⁾、それらを含めて事前の学習指導案検討会、授業後の協議会、授業 DVD の作成等が、教科内に止まらず、校長、教頭、研究主任、学年主任など校内をあげて行われており、a 教師にとって連続的で、深化・発展的な校内授業研究が行われたと考えられる¹³⁾。

また a 教師が、研究授業の機会を「逃さない」ようにするなど、主体的に活かして授業力向上しようとし続けていることもある。

iii - ④、⑤には、授業をしている生徒からの評価、生徒との関係性、ひいては落ち着いた校内の学習状況も授業力向上と関連があると述べられている。特に iii - ⑤で、自校の生徒達の努力を強調し、教師との間に成長し合おうとする関係性があることの指摘は、教師の力量形成に本質的な示唆を与えているものと理解できる。

3.2 校外の社会科教師との対話

ここまで、「これまでどうやって授業力をつけてきたと思うか。」という質問に対する a 教師の回答を分析してきたが、なお残るデータとして、iii - ⑥における、ii - ③の研究授業についての a 教師、e 教師、とわれわれ筆者とにより行った授業研究協議会での a 教師の語りがあ

る。

(今回の授業を改善する具体的な方法について、e 教師からの指摘を受けて、)
 …子ども達が出した言葉を、たしかに達成感があるのは自分の言葉を使う方がいいですね。
 …(MQ に関する議論は) 最後にやった方が面白かったかな。…生徒はよくついてきたかな。チャレンジしなければ、…ああいうふう
 に…班で資料を割り振るとか、先行研究があったわけではなく、アイデアだけでやって、
 やっぱししんどさがあったと思います。e 先生が (先ほど) インタビューで答えておられましたけど、資料が厳選して少ない方が良い
と思います。目がちらつかんで。…そう考えると、日々忙しいなかでも、単元の見通しを持つか、目次を見るとかする必要はあるかな。
目次をみるだけでも、すっと入ってくる。…話を戻します。…だから、(単元の中で) 最後
にやればよかったな。そのほうがかなり盛り上がり、いろんなことが出来たなど。
そうですね大切です。かなり思いますね。…なので、もっと先生方のご意見をお聞きして、
もっと僕がはじめから鳥瞰図みたいに見て、
そっからこう絞っていくという作業が必要なのかなと。単元の問いの構成です。…(下線
 は筆者。)

この中では、e 教師の異なる指摘や回答を受け入れてみることで、自らの社会科授業づくりの視点(単元構成、ないしは単元レベルでの問いの構成)が増えた手応えが語られている。

3.3 入職期の授業力向上の手立て

これまでみてきたように a 教師の授業力の向上にはまず、先輩の社会科教師から授業のモデルや授業づくりの手がかりを得ることがあった。続いて、校内授業研究が大きな役割を果たし続

けていた。A中学校の場合、授業に臨むための生徒や教師間の人間関係が培われていた。その上に、連続的で深い授業研究が全校的に整えられ、a教師自身の意欲を支えていた。

こうした手立てや手がかりの他に加えるとなれば、他校の社会科教師と自主的な授業研究を行い対話を続けていく中で、校内からとは異なる示唆や新たな視点を得ていた。

d教師やe教師の語り、筆者らのこれまでの研究成果を踏まえれば、入職期における社会科教師の授業力向上には、もっとも早い時期には授業モデルを示し、授業を吟味してくれる先輩社会科教師の存在が重要である。続いて、深い授業研究を連続的に行っていくことが重要であり、そのための教師間、生徒と教師間の関係性、全校的な態勢が求められる。さらに、社会科の授業構成や単元構成に関わる新たな視点を得るため、他校の社会科教師らとの自主的で対話的な授業研究が意味を持っている。こうした、次第に開かれていく社会科授業研究を続けていくには、自らの授業を開いてみて得られる手応えや、生徒への責任と愛情に裏打ちされた授業づくりへの主体性が培われていくことが必要と考えられる。

4. お わ り に

本研究の成果は、入職期にある中学校社会科教師の授業力が向上する手立てとして、授業モデルを示すなどの明確な示唆を与えてくれる先輩社会科教師、自らの授業を吟味し改善し続けるための授業研究を推進する校内の態勢、社会科教育の観点から、異なる視点など手がかりを与えてくれる校外の社会科教師や授業研究の組織、そして教師自身の授業づくりへの主体性があることを明らかにしたことである。

残された課題としては、本稿で明らかにしたこれらの手立てを組み込んだ校内の態勢や校外における授業研究組織の具体像を明らかにする

ことがある。また授業力向上と関連性があると考えられる、目標とする社会科教師像の変容について明らかにすることがある。さらに中堅期や熟練期にある社会科教師は、いかに自らの授業づくりをしていけばよいのかを明らかにすることがある。

謝辞：最後になったが、本研究にご理解ご協力をいただき、貴重なデータをご提供いただいたA中学校、B中学校、ならびに関係する教師の皆様に、記して深謝申し上げる。

注

- 1) 本稿では教材研究の力、授業構成能力、授業ひいては単元の開発力などとともに、実際の授業時の展開力、生徒とかかわり、生徒同士をつなぎ関わらせ、学習を深める力、授業を振り返り、生徒や自身の授業を評価し、向上させる力等も考えた。
- 2) 中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」、平成24年8月28日、p. 1.
- 3) 同上、p. 7.
- 4) 同上、p. 13. 他に、中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～（答申）」、平成27年12月21日 参照。
- 5) 同上、p. 23.
- 6) 拙稿「地理歴史科・公民科教師による授業づくりを改善する研修の視点」『社会認識教育学研究』第31号、2016年、p. 1 参照。
- 7) 前掲答申4、p. 20.
- 8) 当該の教師をはじめ関係者には、校内授業研究、インタビュー等を通して貴重なデータをご提供いただいた。
- 9) 広島市教育センター『授業研究ハンドブックⅡ』、平成18年3月、p. 10.
- 10) 前掲書8、p. 9.
- 11) 同じ勤務校の先輩社会科教師からの影響については、d教師が、iii-①、③の語りの中で（「…b校長先生もa先生も教材研究が大切だといってください。…」（iii-①）、「…自分の授業スタイルを考える時、a先生のスタイル（プリント、導入時に教科書を見て書き込ませること）を真似た。上手くいった。…」（iii-③））と述べている。またe教師も、iii-②、④の語りの中で（例えば、「…他の先生方の授業を観たり、生徒の様子を聞いたり、…」（iii-②）、「…一緒に組んでいる人が（付属中から戻ってきた先生で）、資料をもらったり、この先生の授業を覗いたりしています。」（iii-④））と述べている。
- 12) 例えば本研究に合わせ、a教師が行った研究授

業もある。

- 13) ii-③の研究授業に際しては、事前の学習指導案検討のための協議会に10名程度の参加があった。また iii-⑤においては、例えば c 教頭が、「…今回は (a 教師が)、資料の読み取りではなくて、思考・判断・表現の所をやりたいと。子ども達が自分の言葉で書けないというところが (本人の) 課題意識にあって、そこにこだわった。事前協議会で d 先生も言われたように、結論を先に出してという視点も出された中で、本人、悩んで悩んで、工夫しながらやったところなんですけど。私たちがやっぱり、ここの思考・判断、言語活動ところ、いかに授業の中でとり入れて、子ども達に話させるのかというのが、私たちの永遠のテーマで、でも視点を与えないとわからないし、子ども達の中で、やっぱり話し合わせて、はじめて頭が動き出して、…」と語るなど、校内をあげて a 教師の主體的な授業づくりを精神的に支え、継続して育てようとする姿勢が読み取れる。

参 考 文 献

- 五十嵐誓『社会科教師の職能発達に関する研究 反省的授業研究法の開発』学事出版、2011年。
- 池野範男「教師の授業力向上」全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書、2011年、p. 234 参照。
- 伊東亮三「教師の実践スタイルと授業（教授組織）」朝倉隆太郎編『現代社会科教育実践講座 第4巻 社会科の授業研究の方法と展開 社会科学習指導法 I』現代社会科教育実践講座刊行会、1991年、pp. 13-17。
- 久保田貢「『机化』する子どもたちを起こす社会科教育の特質と教師の発達についての研究—井ノ口貴史へのライフヒストリー的アプローチ—」日本社会科教育学会『社会科教育研究』、2007年、pp. 25-35。
- 小原友行「中等社会科歴史授業改善の視点と方法—授業構成を中心に—」社会認識教育学会編『社会科教育の理論』ぎょうせい、1989年、p. 369。
- 丸野俊一・松尾 剛「対話を通じた教師の対話と学習」秋田喜代美編『授業の研究 教師の学習』明石書店、2008年、pp. 68-97。
- 森分孝治「社会科教師の資質と専門性」教員養成大学・学部教官研究集会社会科教育部会編『社会科教育の理論と実践』東洋館出版社、1988年、pp. 50-55。
- 山崎準二『教師の発達と力量形成一統・教師のライフコース研究—』創風社、2012年、pp. 46-54 他参照。
- 横浜市教育委員会編著『「教師力」向上の鍵「メンターチーム」が教師を育てる、学校を変える!』時事通信社、2011年。